

21. 植物の染着力及び色調について（第2報）

渋柿の成熟に伴うシブオールについて

安田女子短大 上畑 もつ

1. 前回において、梅、柿、玉葱の成分が、媒染剤、浸染の時間経過、太陽熱、繊維の種類、手法の繰返えしによって、物理的にまた、化学的作用がどのように変化するか、その染着度及び色調の一端を発表したが、引き続き渋柿についての探究を一步前進することにした。

2. 次の実験材料を用いて五つの条件による染着力及び色調の比較をする。

(1) 甘柿と渋柿との比較

(2) 採取時期による //

(3) 都市産、山村産との //

(4) 柿の同一樹木の発育状態による相違点を大小に分けて実験する。

(5) 日光干、日蔭干との比較

3. 以上の実験は、媒染剤として硫酸銅を用いているが、成熟に伴う比較であるから、7月～9月を各月を10日に区分して実験するので結果については3ヵ月を経過しなければ決定的なことはいえない。しかし、柿の主成分たるシブオールの糖化と反比例して染着度が減退することは、保証されるのである。